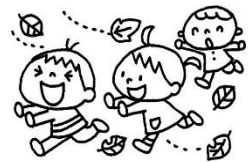


他市の認定こども園への



視察を行いました。



「子ども達のために、常により良い保育をめざしていきたい！」藤井寺市で子ども達の保育にあたる職員共通の思いです。道明寺こども園の認定化についても同じく、少しでも子ども達、保護者の方々により良い保育環境を提供できるよう進化していきたいと考えています。現在、行政、市内の保育所、幼稚園の職員が協力して運営に関する話し合いや研修会を進めていますが、「先行して認定こども園を開園している他市の取り組みも知ろう！！」と八尾市の公立認定こども園を視察させていただきました。コロナの感染対策の中、ようやく実現した視察では、直にこども園での生活の様子を感じることができ、大変参考になりました。

公立の保育所、幼稚園が統合した認定こども園は、0歳から5歳児の定員約200名のうち、3、4、5歳児から1号児、2号児が同じクラスで生活していました。各年齢60名中20名弱が1号認定児とのことでした。

園児数の多い園ですが、どことなくゆったりした、穏やかな雰囲気がただよっていました。「この園の子ども達は、一日中好きな遊びを楽しんでいます」という園長先生の言葉どおり、子ども達が自分でしたい活動を選び、自由に取り組む時間がたっぷりとられ、広い空間の中で継続的に遊びが展開されているそうです。

子ども達が主体的に遊びに取り組み、しかも安全に過ごしていくためには、職員同士の意思疎通や、連携が欠かせません。そのための考え方や方法を詳しく聞くことができました。

〈保育所長からこども園長に赴任された園長先生のお話より〉

- 1号児は14時に降園します。開園前は、この時間帯に2号児が寂しい思いをしないかという心配をしましたが、実際開園すると、1号児は家に帰る、2号児は遊びの続きを楽しむ、子ども自身がそういうものだと思っており、互いに「また明日ね」と別れ、何の混乱も起こりませんでした。家に帰ってからもこども園での楽しかった話が聞かれ、子どもにとっては好きなことが存分にできる楽しさの方が大きいようです。
- 保育所時代は、設定保育の合間に好きな遊びをするという生活でしたが、現在は自由活動の時間を中心に、自分達での遊びを作り出すという生活を繰り返しています。経験させたいことは意図的に計画の中に入れ込んではいきますが、自由に遊びを深めていく中で、子ども自身が学ぶことがたくさんあります。子どもが自分で考えながら遊びを楽しんでいることで、危険なことを自分で回避する力も育ってきており、けがも減りました。子ども発信で遊びを深めていける環境を作っていくことで、異年齢の子ども同士での自然な関わり合いが増えました。担任のみならず、保育者が連携しながら保育を進めています。



道明寺こども園では、どのような方針で保育を行っていくのか・・・

第2保育所、道明寺幼稚園で、協力して、リレー、焼き芋、芋汁大会などの交流活動で実際に子ども同士の関わりをもち、それがこどもにとってどうだったのか、振り返りと検証を重ねている最中です。子ども達は、回数を重ねるほど仲良しになっているようです。子どもさんは楽しかったことなど話されていましたか？子ども達が心から活動を楽しみながら、すくすくと心と体を成長させていく・・・そんな保育をめざしていきます。

